

## 再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課  
担当課長名：高松 諭

事業名	重要物流道路 一般国道294号 常総拡幅	事業区分	一般国道	事業主体	茨城県
起終点	自：茨城県常総市相野谷町 至：茨城県筑西市野殿			延長	27.5km
事業概要					
国道294号は、茨城県取手市から栃木県を経て福島県会津若松市へ至る広域的な幹線道路である。本事業は、常総、下妻、筑西市内の交通渋滞の緩和を図るとともに常磐道、圏央道ICへのアクセス向上による地域の活性化を目的とし、延長約27.5kmの整備および相平橋西交差点の立体化を行うものである。					
H13年度事業化		H1年度都市計画決定		H14年度用地着手	
H15年度工事着手					
全体事業費	約160億円	事業進捗率	約93%	供用済延長	27.5km
計画交通量	22,800～39,000台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 2.1	総費用 (残事業)/(事業全体) 21/285億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 33/595億円	基準年  令和5年	
	(残事業) 1.6	事業費：20/234億円 維持管理費：0.44/36億円 更新費：0/15億円	走行時間短縮便益：42/702億円 走行経費減少便益：-9.8/-128億円 交通事故減少便益：1.4/21億円		
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量：B/C=1.9～2.3 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=1.4～1.8 (交通量±10%) 事業費：B/C=2.1～2.1 (事業費±10%) 事業費：B/C=1.5～1.8 (事業費±10%) 事業期間：B/C=2.1～2.1 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=1.5～1.6 (事業期間±20%)					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏央道常総IC周辺のアグリサイエンスバレーや道の駅「常総」へのアクセス向上により、企業立地や産業振興が図られる。</li> <li>・市街地に流入していた交通が転換され、良好な生活環境の確保が図られる。</li> </ul>					
関係する地方公共団体等の意見					
沿線自治体で構成される「常総バイパス整備促進期成同盟会」から、本事業の早期完成の要望活動が行われている。					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等					
周辺環境等に特に変化はない。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率約91%、事業進捗率約93%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
今後は早期完了を目指し、道路改良工事を推進していく。					
施設の構造や工法の変更等					
杭本数が最小限となる下部構造形式を採用し、基礎構造を小規模化することにより、コスト縮減を図る。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。				

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。